

▲▽海の道▲▽宇野港から豊島に渡る

「フェリーてしま」で豊島へ -小豆島豊島フェリー株式会社-③

◆現場の課題

井手船長とのカタフリでは、船員後継者の育成が悩ましいとの話。どの職場でも労働者不足や後継者の確保・育成が重要な課題になっているが、小豆島豊島フェリーでも同じらしい。

撮影した山本晃広さんや瀧本涼さんなど、若い人が乗船している船はいいなあと感じながらも、井手船長の操船技術や航法術、船長として旅客の生命や船舶・物資などの財産を預かる責任感など、後継者に伝えたいことは山ほどあり、人を育てるのは大変だよなあと他人事に思いながら、「昔の教え方や育て方は、今の時代に通用しませんよねえ」と相槌を打ち、自分の経験談を話しました。

遠洋マグロはえ縄漁船に乗って2年目の時、4歳の生意気盛りで、高知県出身の民下船長にタメ口で話をしたとき、ワイヤー作業に使う「くつきり」で頭を叩かれ、血を流しました。昔はそういう荒っぽさがありましたよねえと伝えると、「今は傷害事件になりますよ」と醒めた一言。

「ですよええ」と、あまり参考にならない昔話をしてしまったことを反省しました。

◆壇山に登る

豊島には家浦港と唐櫃港の2つの港に「フェリーてしま」が発着する。唐櫃港で下船し、豊島の名勝を取材しようと考えていた私は、家浦港を出港してから井手船長に「豊島のオススメを教えてください」と質問したところ、「島キッチン」と「壇山」を教えてくださいました。レンタルの自転車で壇山に登ろうと考えていたので、そのことを伝えると「結構キツイですよ。ちなみに何歳ですか」と年齢を聞かれたので「あと2カ月で3歳です」と伝えると、井手船長から「いくつかコースがあり、狭い道や崖もあるので、自転車はやめたほうがいい」とのアドバイスを受けた。

実はこの時に、絶対に自転車で登ってやろうと決意していたので、これがいかに無謀な挑戦だったか、登りはじめてから気づき、後戻りもできずに井手船長の言葉が身に染みた私でした。

唐櫃港に到着すると、フェリー乗り場の前には、ログハウスの切符売り場があり、循環バスの停留所となっていました。船の発着に合わせてバスも動いているようで、停留所でスタンバイしていました。豊島美術館に向かうとのことで、島の交通アクセスは便利だなあと思いつつ、停留所前にあるレンタル自転車の旗に気づいてしまいました。